

はじめに

本中間報告書は、アジア経済研究所が実施している「2000年代ベトナムにおける新たな社会階層の台頭」研究会（2015～2016年実施予定）の1年目の成果である。

市場経済化、高度経済成長、国際化といった経済変化が顕著となった2000年以降のベトナムでは、都市部、農村部の双方で多様な経済機会が生まれた。そのなかで、職業や所得、権力といった基準から見て多様な層の形成が進んでいる。

本研究会は、現代ベトナム社会に形成された社会階層のなかで、とりわけ上位層と位置づけられる層に注目し、それらの属性と形成過程を明らかにすることを目的としている。ここで上位層に焦点を当てる理由は、それらが政治的意思決定や経済構造、労働市場、またはライフスタイルといった、主要な社会経済変化を牽引してきた層と考えられるからである。それらの層がどのような過程で形成され、どういった特徴を持つのかを明らかにすることは、現代ベトナム社会の特徴の描写のみならず、社会経済変容の根源的な要因の探求にもつながるのではないだろうか。

こうした問題意識のもと、研究会1年目は、まず上位層の特定と、そこに位置づけられる各層についてどのような既存研究やデータが存在するのかを確認する作業から始まった。ベトナムでは従来、社会を捉える枠組みとして社会主義的な階級定義が用いられてきたこともあり、社会階層という概念を用いた研究はいまだ少ない。そうしたなか萌芽的に始まったベトナム国内の社会階層研究で、共通して上位層と位置づけられているのは、指導層（政治的エリート）、企業経営者、高度専門技術職の3職業階層である。本調査研究報告書では、これら3職業階層を取り巻く歴史的背景や現在の属性・特徴について、既存研究・データに基づく予備的な考察を行った。また、一般的に下層と扱われがちな農民層のなかに上位層といえるような高所得を得ている層が出現していることをメコンデルタの実態から明らかにし、上記の3職業階層に加えて、商業的農業者を上位層に位置づける階層分類を仮説的に提示した。

研究会では当研究所の船津鶴代研究員に社会階層論の基礎をご講義いただいた。同じアジアの途上国であるタイを対象として長年にわたり社会階層研究を手がけてきた船津研究員から学ぶところは非常に大きかった。深く謝意を表したい。

既存研究・データのサーベイを通じた研究会1年目の成果を足場に、研究会2年目にはデータ分析の精緻化、現地調査等による実態把握を進め、最終成果に向けた議論・考察を重ねていきたい。本研究会の最終成果は、2017年度中に研究双書として出版される予定である。

2016年3月
編者

目次

第1章 現代ベトナムにおける社会階層構造の把握	1	荒神衣美
第2章 ベトナムの政治エリート層に関する予備的考察 －今日の党・国家官僚のキャリアパス－	30	石塚二葉
第3章 ベトナムの企業経営者層についての予備的考察 －1990年代から2000年代にかけての変化を中心に－	54	藤田麻衣
第4章 現代ベトナムにおける学歴エリートのキャリアパス －制度論的アプローチに向けた予備的考察－	78	伊藤未帆

執筆者一覧

(執筆順、所属は 2016 年 3 月現在)

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 荒神衣美 | アジア経済研究所 地域研究センター 研究員
(第 1 章) |
| 石塚二葉 | アジア経済研究所 新領域研究センター 研究員
(第 2 章) |
| 藤田麻衣 | アジア経済研究所 地域研究センター 主任研究員
(第 3 章) |
| 伊藤未帆 | 神田外語大学 外国語学部 アジア言語学科 専任講師
(第 4 章) |